

<http://www.hagihara.co.jp/>

最新のトピックスをはじめ、当社に関する  
さまざまな情報がご覧いただけます。



**HAGIHARA**  
萩原工業株式会社



**HAGIHARA**  
HAGIHARA INDUSTRIES INC.

## 第53期 年次報告書

平成26年11月1日～平成27年10月31日

萩原工業株式会社

株主の皆様には、平素よりご高配をいただき厚く御礼申し上げます。

萩原工業の第53期（平成26年11月1日から平成27年10月31日まで）が終了しましたので、ここにご報告申し上げます。

当社を取り巻く環境は、雇用・所得環境や企業業績の改善が進むものの、新興国を中心とする海外景気の下振れ、為替や原材料価格の変動等のリスクを抱え、予断を許さない状況が続いております。このような状況のもと、中期経営計画（MI53）の目標達成に向けて各種施策に取り組んだ結果、売上高、利益ともに前期を上回る業績を達成することができました。

また、第54期からは新中期経営計画（DH56）が始まり、「果敢に挑戦、新たな躍動」のスローガンのもと、社員・役員が一丸となり更なる成長と発展を目指してまいります。

そのために、本年1月22日、萩原邦章が代表取締役会長に、浅野和志が代表取締役社長にそれぞれ就任いたしました。新たな体制で積極的な攻めの経営を実施し、競争力・成長力を更に高め経営基盤の一層の充実と強化を図ることで、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

経営方針

当社グループは、「長年培ったフラットヤーン技術を大事にしなが、常に変革し続け、世のため人のために役立つ会社であろう」を経営理念として掲げ、顧客の便益性に応え最高の品質とサービスを提供し、提案型マーケティングと圧倒的なコスト競争力を持ち、独創的な製品を開発することを基本方針といたしております。

第54期におきましては、「果敢に挑戦、新たな躍動」をスローガンとする新中期経営計画（DH56）の達成に向けて、「戦略製品の販売強化と市場開拓」、「海外売上の拡大」、「ものづくりプロセスの再構築」、「新技術融合による顧客価値の創造」といった施策を実行してまいります。そして、さらなる事業の成長を目指して、ステークホルダーの皆様とともに社会への一層の貢献を行うことを経営指針として活動してまいります。

対処すべき課題

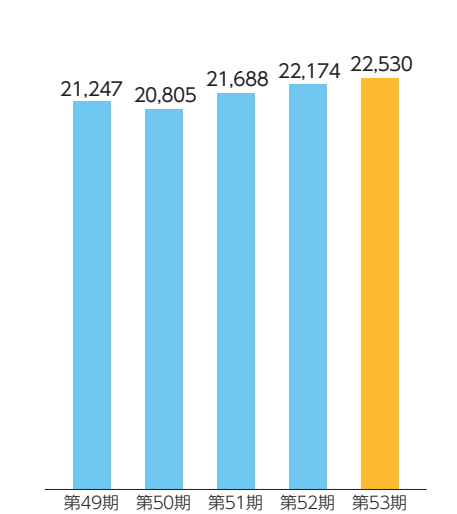
当社グループは、激しさを増す市場競争のなかで、新中期経営計画（DH56）の実行により、フラットヤーン関連事業で確固たる地位を築くことに努めます。

そのためには、徹底した安全と品質向上というものづくりの基本をベースに、マーケティング力の強化、要素技術の磨き上げによる製品競争力の向上と、生産効率のアップによるコスト競争力の向上により、一層の経営体質の強化にグループ一丸となって取り組んでまいります。

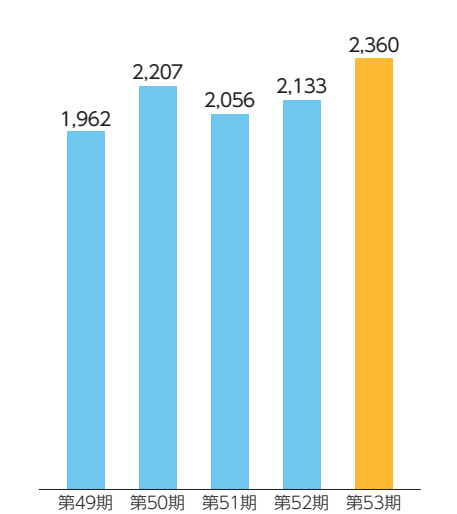


代表取締役会長 萩原 邦章  
代表取締役社長 浅野 和志

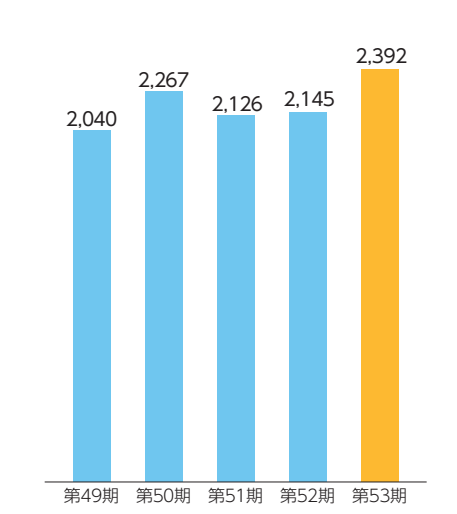
売上高(連結) (単位：百万円)



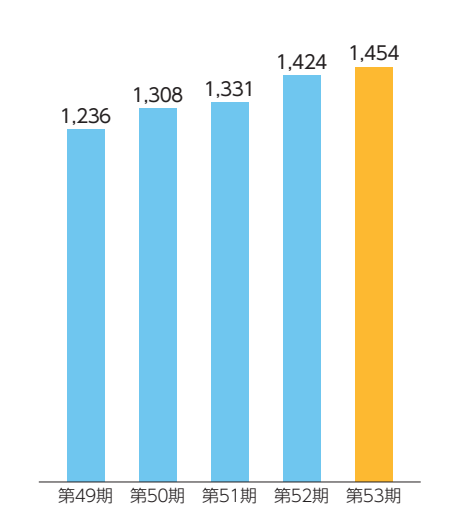
営業利益(連結) (単位：百万円)



経常利益(連結) (単位：百万円)



当期純利益(連結) (単位：百万円)



平成27年10月期  
決算サマリー(連結)

- 売上高 **225億30**百万円  
前期比 **1.6%**増
- 営業利益 **23億60**百万円  
前期比 **10.6%**増
- 経常利益 **23億92**百万円  
前期比 **11.5%**増
- 当期純利益 **14億54**百万円  
前期比 **2.1%**増

— 新中期経営計画スローガン —

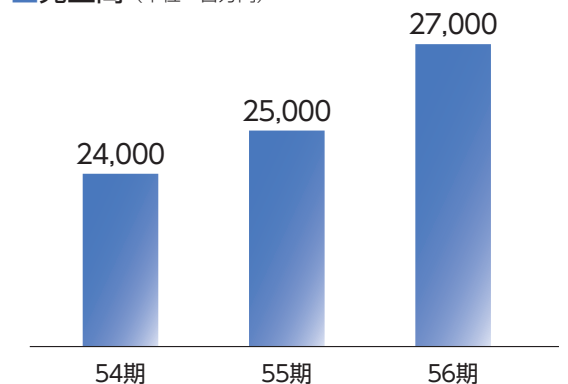
# Dynamic HAGIHARA 56 (DH56) 果敢に挑戦、新たな躍動

当社グループは、平成23年12月に第53期を最終年度とする中期経営計画（MI53）を発表し目標達成に向けて実行してまいりました。外部環境の急激な変化等激しい経営環境を強いられましたが、各種施策を完遂することによりほぼ目標を達成することができました。そこで、第54期を迎えるとともに当社グループが持続的な成長を果たしていくために、第56期を最終年度とする新中期経営計画（DH56）を策定いたしました。

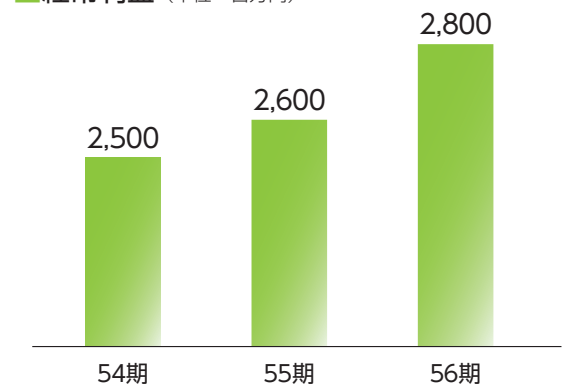
## 数値目標（連結）

売上高 27,000百万円  
経常利益 2,800百万円（第56期計画）

■売上高（単位：百万円）



■経常利益（単位：百万円）



### (1) 戦略製品の販売強化と市場開拓

- ① マーケティング体制の再構築
- ② 幅広い顧客層取り込みのための製品戦略

### (2) 海外売上の拡大

- ① 海外の新市場開拓
- ② 海外営業体制の拡充

### (3) ものづくりプロセスの再構築

- ① 海外工場の機能特化と国内工場の省人化・無人化の推進
- ② モジュールの標準化・ユニット化による品質向上とコスト削減

### (4) 新技術融合による顧客価値の創造

- ① 顧客ニーズを追求した製品開発
- ② 新素材・新技術の導入



## 合成樹脂加工製品事業

### 概況

合成樹脂加工製品事業におきましては、国内向け主要製品であるフラットヤーン及びクロスを中心とした一般産業資材や、人工芝、粘着テープ基材等の生活関連資材の分野で、消費税率引き上げに伴う需要落ち込みの影響が続いております。一方、海外向けラミクロスシート及びメッシュクロスにつきましては新製品の投入、コンクリート補強繊維につきましては価格政策による拡販努力により、それぞれ堅調に推移しました。

インドネシアの子会社「ハギハラ・ウエストジャワ・インダストリーズ社」におきましては、労務費や電力費の上昇に加え、円安による日本向け輸出品の収益性悪化が継続する中、インドネシア国内販売に注力し収益確保に努めました。中国の子会社「青島萩原工業有限公司」におきましては、同じく円安による収益性悪化に対し、生産性改善に努めてまいりました。

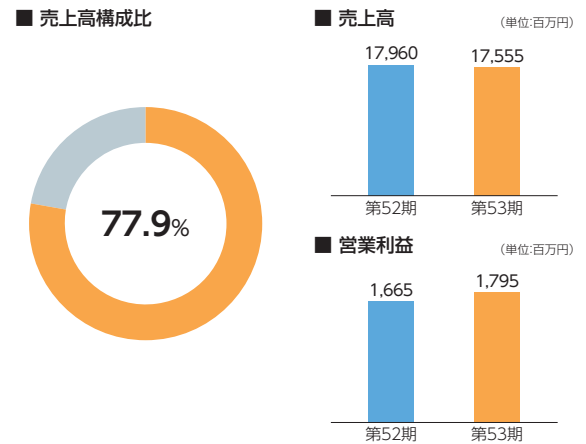
### トピックス メルタッククロス アメリカ市場に本格参入

中期経営計画「MI53」に沿って、メルタッククロスの海外市場での拡販を開始して約3年が経過しましたが、遂に昨年、アメリカのプロデュースバッグ（野菜・果物用の袋）メーカー最大手への供給が決まり、本格的な輸出を開始することができました。

プロデュースバッグは日本ではあまり見慣れない野菜や果物の梱包方法ですが海外では一般的で、メルタッククロスの軽く強く加工性能に優れた特性を生かして、今後更なる用途展開も期待されております。

引き続き、製販一体となって海外市場への販売拡大に取り組んでまいります。

※メルタッククロス  
延伸強化された複合ヤーンをタテヨコに使った熱融着クロス。タテ糸とヨコ糸が熱融着されているためズレやほつれが起こりにくく、軽量・高強度。



ジャガイモ用プロデュースバッグ

## 機械製品事業

### 概況

機械製品事業におきましては、主力製品であるスリッター関連機器は、フィルム分野では光学系用、偏光板用、二次電池用の特殊機及び食品関連軟包装用が堅調に推移しましたが、海外向けスリッター関連機器は、主力である食品関連軟包装用において中国経済の減速に起因すると思われる東南アジアの景気減速により低調な動きとなりました。更に、安価な海外製との競争により厳しい事業環境が続いております。紙分野ではラベル用、ビジネスフォーム用、フォトプリント用及び検針用が堅調に推移しました。

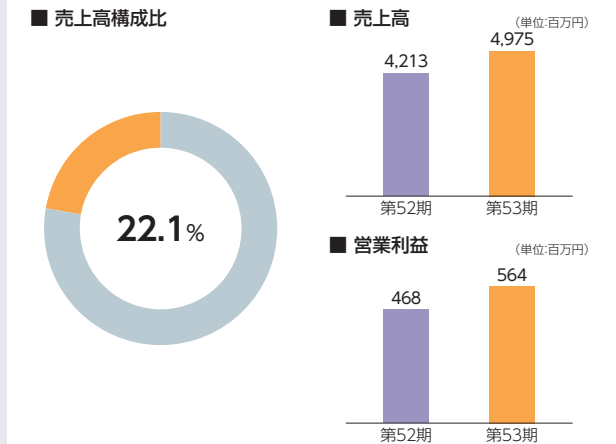
押出関連機器は、食品容器用及び高機能樹脂用にスクリーンチェンジャーが堅調に推移しましたが、造粒機器は特殊樹脂用の設備投資が低調な動きとなりました。リサイクル関連機器は、安価な海外製との競争と慎重な設備投資姿勢により低調な動きとなりました。

### トピックス 使い手に優しい新スリッターを開発

機械製品事業では、お客様のお悩みを解決する新しいスリッター「HDF-505-1300」を開発しました。このスリッターは、従来のスリッターをご使用いただいているお客様の声を反映して、耳巻取装置の改良や製品受取装置の省スペース化により作業性を向上させると同時に、新型フリクションシャフトの採用によりトルク差を従来の半分程度に抑えることで巻取品質を大幅に向上させております。また、経済産業省の「生産性向上設備投資促進税制」にも適応しております。

平成27年10月に東京ビッグサイトで開催された包装機械の国際見本市「JAPAN PACK 2015」で初披露し、多数のご来場者様にご見学いただき、会期中にご成約いただくなど好評を得ております。

今後も製販一体で、お客様の目線に立ったスリッター等の開発に取り組んでまいります。



新型スリッター「HDF-505-1300」

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期 平成26年10月31日現在	当期 平成27年10月31日現在		前期 平成26年10月31日現在	当期 平成27年10月31日現在
資産の部			負債の部		
<b>Point 1</b> 流動資産	14,801	15,456	<b>Point 3</b> 流動負債	6,203	6,093
<b>Point 2</b> 固定資産	9,209	9,275	<b>Point 3</b> 固定負債	1,378	1,483
			負債合計	7,581	7,577
有形固定資産	6,930	7,245	純資産の部		
無形固定資産	235	184	株主資本	15,888	16,381
投資その他の資産	2,043	1,845	資本金	1,778	1,778
資産合計	24,011	24,731	資本剰余金	1,393	1,393
			利益剰余金	12,719	13,605
			自己株式	△ 2	△ 395
			その他の包括利益累計額	540	771
			その他有価証券評価差額金	24	36
			繰延ヘッジ損益	8	3
			為替換算調整勘定	293	453
			退職給付に係る調整累計額	213	277
			少数株主持分	0	1
			純資産合計	16,430	17,154
			負債純資産合計	24,011	24,731

**Point 1** 流動資産

流動資産は、受取手形及び売掛金とたな卸資産が増加したこと等により前期末に比べて増加し、154億56百万円となりました。

**Point 2** 固定資産

固定資産は、生産設備の合理化投資及び円安により海外子会社の固定資産の円換算額が増加したこと等により前期末に比べて増加し、92億75百万円となりました。

**Point 3** 流動負債、固定負債

流動負債は、短期借入金が増加したこと等により前期末に比べて減少し、60億93百万円となりました。固定負債は、長期借入金が増加したこと等により前期末に比べて増加し、14億83百万円となりました。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 自平成25年11月1日 至平成26年10月31日	当期 自平成26年11月1日 至平成27年10月31日
売上高	22,174	22,530
売上原価	16,505	16,555
売上総利益	5,668	5,975
販売費及び一般管理費	3,534	3,614
<b>Point 4</b> 営業利益	2,133	2,360
営業外収益	125	146
営業外費用	113	114
<b>Point 4</b> 経常利益	2,145	2,392
特別利益	105	—
特別損失	14	45
税金等調整前当期純利益	2,236	2,346
法人税、住民税及び事業税	814	854
法人税等調整額	△ 2	37
少数株主損益調整前当期純利益	1,424	1,454
少数株主利益	0	0
<b>Point 4</b> 当期純利益	1,424	1,454

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**Point 4** 営業利益、経常利益、当期純利益

海外向けラミクロスシート、コンクリート補強繊維、スリッター関連機器の拡販に注力した結果、営業利益23億60百万円、経常利益23億92百万円、当期純利益14億54百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 自平成25年11月1日 至平成26年10月31日	当期 自平成26年11月1日 至平成27年10月31日
<b>Point 5</b> 営業活動による キャッシュ・フロー	2,870	1,762
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,444	△ 815
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 970	△ 1,117
現金及び現金同等物に係る 換算差額	20	△ 2
現金及び現金同等物の 増減額（減少：△）	476	△ 173
現金及び現金同等物の 期首残高	2,832	3,308
現金及び現金同等物の 期末残高	3,308	3,134

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**Point 5** 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは税金等調整前当期純利益が増加しましたが、売上債権及びたな卸資産の増加等もあり、17億62百万円となりました。

## ■株式に関する事項

(平成27年10月31日現在)

発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式総数	7,448,800株
単元株式数	100株
株主数	2,439名

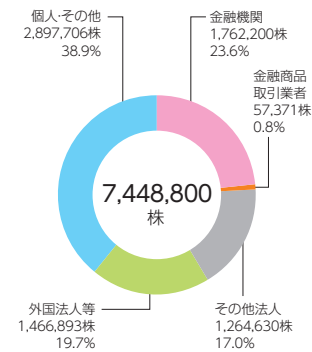
## 大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
萩原株式会社	717	9.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	683	9.17
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	326	4.38
日本ポリケム株式会社	305	4.09
萩原工業従業員持株会	278	3.73
萩原邦章	263	3.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	241	3.24
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE FIDELITY FUNDS	197	2.65
萩原賦一	197	2.64
DEUTSCHE BANK AG LONDON - PB NON-TREATY CLIENTS 613	116	1.56

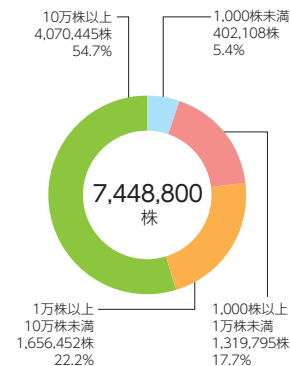
## ■株式分布状況

(平成27年10月31日現在)

## 所有者別株式分布状況



## 所有株数別株式分布状況



## ■会社概要

(平成27年10月31日現在)

商号	萩原工業株式会社
本社	〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通一丁目4番地
	TEL.086-440-0860
	FAX.086-440-0869
設立	昭和37年（1962年）11月29日
資本金	17億78百万円
従業員数	417名
主な事業内容	ポリエチレン・ポリプロピレンを主原料とした合成樹脂繊維のフラットヤーンを用いた関連製品及びフラットヤーン技術を応用したスリッター等産業機械の製造・販売

## ■役員

(平成28年1月22日現在)

【取締役】	
代表取締役会長	萩原 邦章
代表取締役社長	社長執行役員 浅野 和志
取締役	専務執行役員 田中 稔一
取締役	常務執行役員 道廣 和生
取締役	執行役員 笹原 義博
社外取締役	中原 裕二
社外取締役	秋草 史幸

【監査役】	
常勤監査役	吉川 龍男
監査役	石井 辰彦
監査役	三宅 孝治

【執行役員】	
執行役員	浅野 幾弘
執行役員	飯山 辰彦
執行役員	山本 実治
執行役員	吉田 淳一

## 株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	7856
事業年度	11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	1月
基準日	定時株主総会 10月31日
	期末配当 10月31日
	中間配当 4月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告
	当社ホームページアドレス <a href="http://www.hagihara.co.jp/">http://www.hagihara.co.jp/</a>
	※ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777（通話料無料）

## 株式のお手続きについてのご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、ご不明な点は口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店におきましてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。